

リーディングプロジェクト -10カ年の主な実績-

- 1 いきものが棲み続けるまちづくりプロジェクト
- 2 まちの美化推進プロジェクト
- 3 エネルギーの地産地消推進プロジェクト

1 いきものが棲み続けるまちづくりプロジェクト

外来生物対策	NPO法人亀岡人と自然のネットワークを中心に、ため池での外来魚釣り大会や、アユモドキ生息河川上流のため池での池干しに伴う外来魚の駆除活動などを実施した。 アライグマ、ヌートリアの個体数の削減を図るため、捕獲オリの貸出しや捕獲個体を処分した。
アユモドキの保護保全	亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会を中心とした保護保全活動及び普及啓発の実施。啓発冊子等を作成・配布した。また、ファブリダム立ち上げ時の濁水場所でのアユモドキ救出作業や、中干し・落水時のアユモドキ救出活動、生息状況・繁殖状況の調査、生息環境再生整備実験を実施した。
アユモドキの飼育展示	生息域外保全事業の一環として、亀岡市役所、文化資料館、サンガスタジアム、城西小学校、保津小学校で飼育展示を行い、保護啓発に努めた。
水辺環境の創造	保津川かわまちづくり推進協議会において、整備計画の策定推進を図った。 また、河川工事において水質の保全、生物の生態系に配慮するとともに、美しい山河を守る災害復旧基本方針に基づく設計施工に努めた。
水質浄化	年に2回(5、11月)35定点、年に4回(7、9、1、3月)9定点で水質検査を実施し、各河川の継続的な水質監視を行った。

2 まちの美化推進プロジェクト

海ごみサミットの開催	平成24年に内陸部の自治体で初開催となる海ごみサミット2012亀岡保津川会議を開催し、国・府・NPO・NGOなど国内外の関係者700人以上が参加した。 海ごみサミットに続き環境への取組として、平成30年3月には、循環型社会の構築のため「亀岡市ゼロエミッション計画」を策定し、続く12月には、亀岡市議会とともに「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行った。
美化活動の促進	令和2年8月1日より、環境美化条例が廃止され、新たにポイ捨て等禁止条例が施行された。同条例第10条に係るポイ捨て防止重点地域において、清掃活動及び啓発活動を実施した。 また、令和2年度に、14ヶ国語でごみ収集日、ごみの分け方、出し方を記した「ごみの分け方・出し方」チラシを作成し、多言語での啓発・情報発信に取り組んだ。
漂着ごみ問題対策	「川と海つながり共創プロジェクト」と連携し、漂着ごみ発生抑制対策の取り組みとして、環境美化活動や啓発事業を実施した。あわせて、プラ製レジ袋の提供禁止条例やポイ捨て禁止条例の周知広報等を実施し、漂着ごみの「発生抑制対策の亀岡モデル」の構築を推進した。 また、「世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会」にて、地域循環共生圏の創出に向けた各種議論を進めた。
不法投棄対策	専任監視員によるパトロール及び不法投棄多発箇所への啓発看板設置を実施した。 亀岡市環境事業公社、亀岡郵便局及び補新聞舗との協定に基づく監視体制の強化と不法投棄関連情報の提供を受けて早期対応に務めた。
ごみの資源化の促進	使用済小型家電をはじめ、インクカートリッジや古紙回収の拠点を整備した。また、ステーション収集としては使用済み小型二次電池の分別収集を介した。 再資源化の取組としては、協定事業者と連携し、焼却処分としていた羽毛布団や処理困難物として扱っていたインクカートリッジを再資源化するとともに、不燃性粗大ごみについても、金属・プラスチック資源としての再資源化を開始した。
良好な景観の形成	平成27年10月1日から亀岡市景観計画及び亀岡市景観条例を施行し、地域に応じた特色ある景観形成の誘導を行った。
保津川流域の保全	「川と海つながり共創プロジェクト」と連携し、漂着ごみ発生抑制対策の取り組みとして、清掃活等環境美化活動や啓発事業を実施した。 また、河川愛護啓発事業として、街頭広報活動を実施し、市民の環境意識の向上を図った。

3 エネルギーの地産地消推進プロジェクト

住宅用太陽光発電システム設置に係る補助	平成29年度から、太陽光発電システムに加えて蓄電設備への補助を実施し、再生可能エネルギーの導入支援策を拡充した。亀岡市家庭向け自立型再生可能エネルギー導入事業費補助金H29(5件)、H30(16件)、H31(24件)、R2(26件)、R3(31件)を交付した。
自然エネルギー利活用の研究	2018年に地域新電力「亀岡ふるさとエナジー株式会社」を設立。亀岡市年谷浄化センター消化ガス発電事業の電力の買取りを開始し、エネルギーの地産地消の取り組みを行った(R2.12～)。
環境マネジメントの推進	第3次計画期間(H27年度～R2年度)は温室効果ガス9%減(H26年度比)を目標として掲げており、H29年度時点で温室効果ガス排出量9%減を達成した。
モビリティ・マネジメントの推進	市内小学校において交通環境学習を実施(計12校756名)した。エコ通勤優良事業所認証を継続し、職員のエコ通勤に努めるとともに、京都サンガF.C.のホームゲームにあわせて市民ノーマイカーDayを実施するなど、公共交通の利活用を促進した。
低公害車の導入促進	公用車の買い替えにあたっては低公害車、低燃費車の軽自動車等を購入した。主な実績としては、水素燃料車1台、電気自動車3台、低公害車(マイクロバス)1台、ハイブリッド車1台を購入した。
森林資源の活用促進	森林資源の活用促進に向けて、間伐(搬出)を実施し森林整備を行った。※R3東別院町東掛